

# 第1回 六甲山系妙法寺川地域学習ゾーン検討委員会

## 議 事 要 旨

1. 開催日時：平成24年10月4日(木) 14:00～16:00
2. 開催場所：神戸市須磨区役所 多目的会議室
3. 出席者：

### 【委員】

宮田 隆夫	神戸大学名誉教授	構造地質学
香西 直樹	六甲山自然案内人の会 代表	自然(六甲全体)
志水 英治	神戸市総合教育センター 授業づくり支援室主任指導員 (前妙法寺小学校長)	自然(郷土)
隈下 潤	神戸市立板宿小学校 教諭	郷土史
田中 敏夫	須磨FRS ネット 代表幹事	地域活動
神野 忠広	六甲砂防事務所事務所長	砂防・防災

### 【事務局】

六甲砂防事務所	綾木副所長、森東課長、杉浦係長、西山技術員
株式会社エイト日本技術開発	田中、吉川、松本、松島

### 4. 配付資料

- 議事次第
- 第1回検討委員会資料(資料①～⑦)
- 参考資料 「みんなで語り、伝えよう! 夙川物語」「主な学習要素(妙法寺川地域)」

### 5. 議 事

1. 事務所長あいさつ	・六甲砂防事務所 神野所長あいさつ
2. 委員紹介	・各委員、事務局による自己紹介(資料①)
3. 委員会設立趣旨、規約(委員長の選任)	・事務局による説明(資料②)
4. 検討委員会での検討内容・スケジュール(案)	・事務局による説明(資料③)
5. 妙法寺川流域の特性・主な学習要素について	・事務局による説明(資料④、参考資料)
6. 学習ストーリー骨子と散策ルートのポイントについて	・事務局による説明(資料⑤)
7. 事前説明・ヒアリングにおける意見概要等について	・事務局による説明(資料⑥)
8. 意見交換	
9. 冊子における「わかりやすい表現」について	・事務局による説明(資料⑦)
10. 閉会	・六甲砂防事務所 神野所長あいさつ

## <議 事>

### ●事務所長あいさつ

### ●資料①～⑥事務局説明 (宮田教授が委員長に選任される)

### ●意見交換

#### (志水委員)

- ・教育センターの資料で、平成4年に高取山で発掘した石炭とともに、妙法寺川で発掘された石炭があるのを見つけた。質はあまりよくないようであるが、妙法寺でも石炭があったということは、私たちや子どもたちに、たいへんインパクトがあると思われるので冊子の何処かに取り入れてはどうか。

#### (香西委員)

- ・P5 の須磨の希少植物として 神戸市のレッドデータブックにも掲載された板宿八幡神社のヒメユズリハーカゴノキ群落、また須磨寺にはヒメユズリハーヤマモモ群落が見られこの周辺にはヤマモモがたいへん多い。また鉢伏山にはウバメガシ群落が見られる。鉢伏山は一帯がウバメガシが生えており、この地域の大きな特徴であるので学習要素として取り上げるべきである。
- ・海岸にはレッドデータブック B ランクの海洋性植物群落が見られる。
- ・街の変遷として、旧国鉄の鷹取工場には日本一の工場があった。現在は公園になっているが明治から昭和の変遷の大きな要素である。
- ・P6 の文化施設のその他にある須磨健康環境科学研究センターは現在はないのでは？2年ほどそういう名称が使われていたが、(財)ひょうご環境創造協会(表では兵庫環境創造協会となっているが兵庫はひらかなで、ひょうご環境創造協会である)に合併されたりして現在はなくなっている。

#### (志水委員)

- ・冊子の活用という観点から、小学生を教える立場から考えると、理科であれば、たとえば動植物を学習するときに、私たちが住んでいる須磨ではどうなっているかなどのつながりがよく分かるような記述を冊子に盛り込んでもらえれば活用しやすいのではないかと。

#### (隈下委員)

- ・ページの制約もあると思うが、文化を紹介する際に、過去の文化が現在にどのようにつながっているか、文化を伝えることの大切さを教えるような内容を記述してはどうか？たとえば84ページ(夙川物語)の「自助・共助・公助」のところなどで、紹介のみにとどめるのみではなく、その災害のつど、人の命と引き換えにどのような工夫がなされてきて、それがどのように災害を少なくしてきたかなどを記述がほしい。阪神淡路大震災前まではハード面の対策がほとんどであったが、震災では地域の人たちの助け合いなどのソフト面がたいへん功を奏したといわれている。そのような知恵や工夫がどのように文化として伝えられるかが少しでも盛り込まれると良い。
- ・鎮守の森と防災とのかかわりは大きいものがある。昔の知恵や文化が防災に役立っていることを記述してはどうか。

#### (神野委員)

- ・昔の防災について、昔は村々のつながりが強く、江戸時代には自分で守るという意識があった。それが明治、大正、昭和とそのつながりが希薄になり、平成7年の震災で再度見直されたともいえる。横のつながりがたいへん大事である。
- ・鎮守の森は、六甲山は昔は禿山であったというが、鎮守の森の部分は緑が残っていた。神域としてたいへん大切にされていた。生田神社などは住宅地にあったために木が次第に失われてきたが、山のほうでは住宅地に比べて残っているところが多い。

#### (限下委員)

- ・本で読むと、植林された木は弱い、自然に残された森などはいろんな種が共生しあっていたいへん強いといわれている。防災もそういった観点から紹介してはどうか。

#### (香西委員)

- ・自然をほったらかしにすることが自然を守るのではなく自然が偏ってしまうことになる。自然も手を加えないと生物多様性が守れない。災害に強いものにするためにも人間が手を加えることが必要である。全国的にも手を加えずほったらかしの山が多く、それらがどんどん崩れている。手が回っていないというのが現状であろう。

#### (田中委員)

- ・事前説明で追加してほしいといったところはほとんど記入されている。言い忘れたところや訂正してほしいところは以下のとおりである。
- ・天井川は森が豊かである。これは離宮の御料地として木が切られなかったためかと考えられる。
- ・P5の地形の特色のところが多井畑断層も入れて欲しい。丹波層群の説明はあるが神戸層群の記述も必要ではないか。また、妙法寺小学校の南側の小さな公園に神戸層群の中にあつて丹波層群の岩ではないかと思われる大きな黒い岩が2つ見られる。
- ・白川累層を入れるのであれば多井畑累層も貝の化石が出る地質ということで加えて欲しい。
- ・天井川周辺を再整備するときに出た残土は、JRの鷹取駅から兵庫駅間の盛土を造るために使われた。これは歴史の大切なところではないか。
- ・千森川の下流にコモ谷があつたとなつているがコモ江というヨシが茂る大きな深い入り江があつたということでコモ江の聞き違いであろう。
- ・一の谷の「戦いの濱」は「戦(いくさ)の濱」か一般的かと思われる。
- ・P6の環境学習欄で、地域団体でFRS ネットの中で抜けている団体があるので、入れたり入れなかったりするの公平性を欠くため、入れるなら全部入れて欲しい。  
「いたやど里山クラブ」は、現会員自身は「いたやにすと」と言っているので記述は「いたやにすと」にした方が良い。またその他の団体で「すま・はまの会」も熱心な活動を行っているので追加すべきである。
- ・須磨にはたくさんの水車があつたとなつているが、多くは確認できていないのでほんとうにたくさんあつたかどうかは確認の必要がある。
- ・天井川ビオトープとの記述があるが、天井川公園の中にあるビオトープが正しい。
- ・歴史の寺社の紹介については、那須神社を入れるなら北向八幡神社を入れるべきである。
- ・長くほったらかしで生物多様性がほとんど失われてしまったところも「いたやにすと」の活動で回復しつつある。自然を守るにも人間の手は必要である。
- ・散策ルートにベルトコンベアの跡地が記されているが現在は現地ではほとんど確認が出来ない。
- ・散策ルートP18で證誠神社から勝福寺へはコの字型のルートとなつているが、まっすぐ行くルートがあるのでそれを表示したほうが良い。
- ・主な学習要素の33.勝福寺の記述で、山津波でほぼ完全に破壊させられたことも追加してほしい。
- ・その他48.須磨水族館は須磨水族園に、51.須磨寺遊園地の大池と堂谷池の2つの記述をどちらかに統一、71.天皇池は池の写真とトンネルの写真の2つを掲載、48.須磨海浜公園の国民宿舎は現在なくなつている、50.須磨離宮公園の「今上天皇」は「昭和天皇」に修正のこと

#### (神野委員)

- ・記述する用語として、「節理」「ビオトープ」「サナトリウム」など専門用語や分かりにくい言葉を分かりやすいものに工夫する必要がある。
- ・昭和13年の大水害以降に造られた砂防えん堤が、急激に住宅化されて団地の中に取り込まれ、機能を

果たしていないものも見られる。そういうものも紹介してはどうか。

(田中委員)

- ・小学校では池を造ると、本来の意味からはずれて、なんでもかんでもビオトープと称しているところがある。「多自然の池」などと言い換える方法もある。

(宮田委員長)

- ・断層としては多井畑断層を入れる必要がある。六甲山としては西のはずれは高塚山断層ということになるので、そこまでは入れるとするかどうかの判断になる。
- ・神戸層群は説明する必要がある。
- ・白川類層については最近の新しい表記として白川累層といわずに「白川層」などといっている。同様に多井畑累層も多井畑層というべきかも知れない。どちらかに統一することが必要である。
- ・化石なども代表的なものの名前をカタカナで写真とともに紹介したほうが良い。
- ・西暦、年号は統一した表記が必要である。
- ・この地域の特徴として段丘は、須磨を境に東方が高く明石の方に向かって低くなっているのが大きな特徴である。これについては断面図などで説明したほうが良い。

#### ―散策ルートについて―

(香西委員)

- ・散策ルートについて妙法寺川沿いのルートは小学生には長すぎるのでは。半日でいけるルートとして2ルートとするか、コースを短く設定したほうが良い。このルートで⑫から⑬の間は神戸層群が見られたり化石があるなど良いコースであるが⑪から⑫の間には見るべきものがあまりない。

(田中委員)

- ・那須神社は北向八幡神社と同じ境内にあるので北向八幡神社とし、那須神社は那須与一の墓と一緒にしてはどうか。
- ・⑦(那須神社)の位置からまっすぐ上に地図上で1cm先ほどのところに、先ほど意見を述べた丹波層群と思われる2つの黒い岩がある。その石がどういうものかを確認して、もし六甲の形成学習に必要なならコースに追加してはどうか。
- ・須磨海岸・源平などのコースの⑧須磨寺と⑩須磨寺公園はくっついているので一体とし、須磨離宮公園を⑩としたほうが良い。

#### ●資料⑦ 事務局説明

(宮田委員長)

- ・次回までに、実際の冊子、ルート図、サブノートの案を事務局が用意するので、それを基に検討していただきたい。

#### ●閉会挨拶

(神野所長)

- ・今日頂いた貴重な情報、ご意見をもとに、よりよい「妙法寺川物語」を作りたいと思う。今後もしよろしくお願ひしたい。